



# 祝祭空間 都市に劇場を据え付ける



立川 千夏 (たちかわ ちなつ)  
千葉大学 工学部 都市環境システム学科

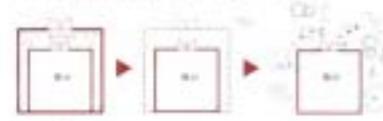
## 祝祭空間 ー都市に劇場を据え付けるー

演劇、先行作はここら中開きを共有出来る場、疑問に感じる風景として、手元の電子機器等の操作に気を取られ周囲に無関心で俯きながら歩く人々の風景があった。劇場内部の演出性や臨場感といった要素を外に出せたらそれらを変えることができるのではないか。

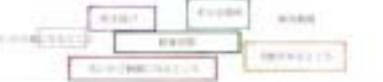
対象地



空間計画1

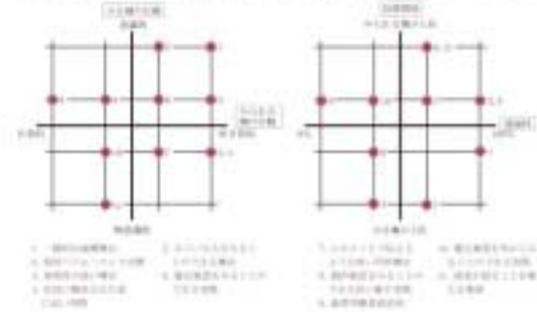


空間計画2



空間計画3

この計画は、先行作の空間計画を継承し、周辺環境を考慮し、都市環境に適合させることにより実現を目指す。



空間計画4 透視図 一階一

この透視図は、先行作の空間計画を継承し、周辺環境を考慮し、都市環境に適合させることにより実現を目指す。



演劇、それはこころの祭りを共有出来る場。

疑問に感じる風景として、手元の電子機器等の操作に気を取られ周囲に無関心で俯きながら歩く人々の風景があった。劇場内部の演出性や臨場感といった要素を外に出せたらそれらを変えることができるのではないか。

演劇と音楽文化の街、下北沢を対象地とし劇場・劇団・都市の3つの視点から計画を行う。同時に対象地では失われつつある街並み文化と、感じられない演劇文化という現状があり、演劇が公共的になることでそれらを解決できるのではないかと考えた。公共的になることをより多くの人が演劇を感じられるようになることと定義し、空間を構成していった。

都市に劇場が据えられ、都市と都市を歩く人々の風景が変わることを期待する。



### 講評

携帯電話やゲーム、電子書籍などの機器が、街を歩く人々の風景を、あるいは心を変えてしまいつつあるという社会問題に対して、「演劇」の力で解決を図るという意欲作である。いわば「公園型の小劇場群」を都市に据える事で、ナマの人間による表現力や臨場感あふれるパフォーマンスを、気軽に体感できる空間を提案している。建築同士の余白に出来る外部空間や野外劇場、多様な劇場の性格を設定し、それに応じて透過性のある外壁を用いるなど、作者の創造性の豊かさと群としての小劇場建築の可能性が感じられる点が高く評価された。街ゆく人々を誘い込む、より積極的かつ建築的な仕掛け、舞台とバックヤードとの関連など、具体的な建築デザインやプランニングへの落とし込み、さらには劇場・劇団の運営プログラムとの整合など、完成度を増すことによって、さらにレベルの高い作品となり得ただろう。(審査委員：青井 俊季)